



カネコ種苗(株)
くにさだ育種農場
狩野 晃一

幅広い耐病性で
抜群の作りやすさ!

(カネコ交配)
ハクサイ **ことぶき**
(KAH-606)

● 備えている品種を使いたい方。
● 年内収穫は75日タイプを遅めの播種期で使っていたが、12月収穫では球葉部の枯れ込みが増え、葉を剥く手間がかかると感じている方。
● 12月出荷の品質を上げたい方。

特徴①【耐病性】

①黄化病

アブラナ科の作付けにおいて、根こぶ病とともに問題となる土壌病害が黄化病(Verticillium属のカビ)です。現状、根こぶ病より防除が困難で、ハクサイ産地では大きな課題となっています。

「ことぶき」は数年間におよぶ産地試作において、現在市販中の耐病性品種並みの強さを実証してきました。

※菌密度の高い激発頻場では、発病することもあります。輪作体系や耕種的防除など総合的な防除が必要です。



黄化病耐病性の比較

はじめに

ハクサイの秋冬作型の中でも、『12月どり』は比較的作柄が安定しやすい作型でした。しかし、天候不順や10月に襲来する台風など予期せぬ事態が多発する昨今、状況は変化しています。冬期収穫予定の圃場にもかかわらず、軟腐病や黒斑細菌病が問題になったり、収穫間際に黄化病

等が発生したり、課題は増すばかりです。かつて関東の主産地などでは、品種構成的に12月どり専用種の80日タイプが多く使われていました。ここ数年、品種が絞られていくなかで、75日タイプをじりじり遅くまで収穫したり、年明けどりの中晩生/晩生品種を生育前進化させ12月に収穫したり、という現状があります。

こんな方にぜひおすすめ

●黄化病が気になりだして耐病性品種を使っているが、耐寒性も兼ね

②軟腐病

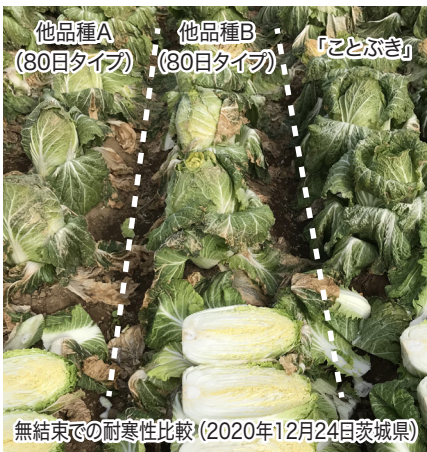
近年、話題に挙がるのが少なくなってきた軟腐病ですが、10月に2回も台風が襲来した2019年は、関東のハクサイ産地でも大きな被害が出ました。特に生育ステージ的に12月収穫予定の圃場で被害が大きく、軟腐病が多発した背景があります。「ことぶき」は当時「KAH-606」として試作中でしたが、そのなかでも発生が軽微であり、非常に高い評価をいただきました。

③白斑病/べと病/根こぶ病

数年間の産地試作の結果、通常防除をしていたければ各種病害にも安定して耐病性を示しております。※根こぶ病については、レースにより発病する場合もありますので、あらかじめご了承ください。

特徴②【耐寒性】

「ことぶき」は、葉色のとても濃い品種です。特に11月以降、霜や低温にあたつてくるとその違いがはっきりと表れます。年によって、夏の暑さの後、『秋らしい』天気を経ないで急に冬のような低温期になることがあります。そのような年は、寒さに慣れていない



無結束での耐寒性比較(2020年12月24日茨城県)

ハクサイの葉が激しく傷みます。無結束で収穫を迎える圃場はなおさらです。そんな時こそ左写真のように「ことぶき」の耐寒性が発揮されます。

特徴③【品質】

耐病性品種というと、葉質の硬いイメージを持たれがちですが、「ことぶき」は、軸も硬すぎず収穫作業性が優れ、鍋や漬物にも最適な品種です。食味にも優れます。

特徴④【生理障害耐性】

特に『こま症』の発生が少ない品種です。加工用途にも安心してお使いいただけます。

栽培ポイント

①定植時期に注意(早植えNG)
「ことぶき」は、早植えると球形が

③適期苗定植を心がける

やや縦長形になりたがりです。関東中間地12月収穫目安で、定植は9月15日ころ(以降にしてください)。
②あまり遅くまで引つ張らない
前述しましたように「ことぶき」は葉色が非常に濃い品種です。圃場の様子は年明け出荷までしばらく置きそうな印象ですが、『80日タイプ』の中生品種です。収穫時期のメインは『12月収穫』として計画してください。1月以降の収穫には、当社の中晩生以降の品種である、「黄将」や「おもむき」でつないでいただく、より良品生産に繋がります。

最後に

少しでも産地の皆様に喜んでいただけるよう、品種育成を進めており

●当社品種収穫時期別の使い分け(関東標準)

	11	12	1	2
菜時黄				
ことぶき				
黄将				
おもむき				

作型表

●: 播種 ×: 定植 ■: 収穫

	8	9	10	11	12	1
中間地	●	×			■	
暖地	●	×			■	



ます。私たちの目標の元になつてくるのは、産地の皆様の生の声です。これからも当社品種をご愛顧いただきながら、新品種への期待の声や要望をどしどしお寄せください。